

## 令和7年度 (宮城県立迫支援) 学校の研究概要 ~令和8年1月末現在~

運営委員氏名 ( 松澤 宏衣 )

研究テーマ	「生きる力をはぐくむための自立活動の指導の充実」 ～協働による自立活動シートの作成と活用を通して～
研究目標	児童生徒一人一人の生きる力をはぐくむために、協働で実態把握、目標設定、困難さの要因の推測、有効な手立て等を検討して「自立活動シート」を作成し、活用することを通して、より効果的に充実した自立活動の指導の在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画等	<p>研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立活動に関する基礎研修の開催</li> <li>2 協働による自立活動シートの作成と活用</li> <li>3 『自立活動サポートシート』の作成</li> </ol> <p>研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立活動の研修会を開催して、自立活動の意義や目標、実態把握から困難さの要因、手立てと実際の指導を例にあげて紹介するなど、自立活動に関する基本的な捉えを共有する。</li> <li>2 複数の教員で実態把握、目標を立て、学年部等で困難さの要因、有効な手立てを検討して自立活動シートを作成する。さらに、指導後、学年部等で児童生徒の変容と有効だった手立て、指導内容を確認するなどフィードバックして検証する。</li> <li>3 学級や学年部会等で話し合いの資料となる本校オリジナルの『自立活動サポートシート』を研究部で作成し、提案する。</li> </ol>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>研究の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自立活動に関する基礎研修 (6/13) <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育と自立活動の目的、自立活動の役割、教育課程における自立活動の位置付けなど、基本的な事項について確認した。</li> </ul> </li> <li>2 重度重複障害の自立活動の指導の実際 (7/31) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間における指導の実践について、脳性まひの緊張型の児童の身体に関わる指導と認知学習の事例と弛緩型の生徒のファシリテーションボールを使った指導の紹介を行った。</li> </ul> </li> <li>3 協働による自立活動シートの作成、活用について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 複数の教員による実態把握と目標検討 (7/14)</li> <li>(2) 学年部等で困難さの要因を推測、有効な手立ての検討 I・II (9/10、10/14)</li> <li>(3) 有効な手立ての共有 (11/7)、指導の結果 (12/2)</li> </ul> </li> <li>4 『自立活動サポートシート』の作成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の個別の指導計画の作成や普段の指導を行う際の参考になるよう『自立活動サポートシート』を作成した。作成にあたっては、全校生徒の自立活動の目標と手立てを一覧表にし、6区分のどの領域に関わる目標が多いかなどの傾向を捉えてから、研究部と指導の形態部会の自立活動班が協働で取り組んだ。</li> </ul> </li> </ol> <p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修では、自立活動に関する共通理解が深まり、普段の指導における自立活動の視点の重要性の再認識につながった。協働で自立活動の個別の指導計画を作成することで、多角的な実態把握、より妥当な目標と指導内容の設定、一貫した指導をすることができ、新たな視点や支援の在り方などを得る機会となった。『困難さの要因』を多角的な視点で推測することで、より児童生徒理解につながり、指導の手立てを考えやすくなったり。また、『有効な手立て』を考察することで、具体的な指導の内容を立てやすくなったり。</li> </ul>